

移民史・伝記・ノンフィクション ご担当者さま

沖縄タイムスにて紹介されました（11月13日 2013年）
ぜひご注文ください

辻本昌弘 著

四六判上製 232頁 定価 2730円（税込）
ISBN 978-4-7885-1353-2

語り 移動の近代を生きる

あるアルゼンチン移民の肖像

新曜社刊

当たり前前の人間の姿にこそ
真に学ぶべきものがある――

本書は、戦前の沖縄に生まれ、本土で十代を過ごし、アルゼンチンに渡ったある男性の私的な語りです。偉人でも、立志伝中の人物でもありません。ある移民の、個人的な体験です。しかしその語りから鋭く立ち現われるのは、十九世紀の琉球処分、二十世紀の総力戦争、さらに二十一世紀を生きるアルゼンチンの日系人にまで及ぶ、近代という時代です。

アルゼンチンの日系紙「らぶらた報知」記者で本紙通信員の崎原朝一さん(79)の半生を聞き書きした『語り』移動の近代を生きる あるアルゼンチン移民の肖像（辻本昌弘著、新曜社）がこのほど出版された。最後の御冠船踊りに登用された土族の子孫である崎原さんら一族の「世替わり」、沖縄戦の疎開、移民と一族の歴史を通して沖縄の近現代史を鮮やかに映し出す。

著者の東北大准教授の辻本さんが、学生時代に移民史編集事業の中で崎原さんに出会ったことをきっかけに同著が生まれた。

崎原さんは那覇市の崇元寺町の出身。沖縄戦前に宮崎県高鍋へ学童疎開、戦後は米軍占領下の沖縄に戻らずに、父親の呼び寄せで1951年アルゼンチンへ移民した。言葉の壁で進学を断念し、父の洗濯屋を引き継ぎ、経済不況から日本への出稼ぎ、邦字紙記者として活躍する現在までを、一族の来歴にふれながら重層的に描く。

「風子」の俳名で、崎原さんが発表した俳句群も収録されている。「ツイストおわり河へ鮮明に靴脱ぐ母」。しまくとろば、日本語、スペイン

語とさまざまな言葉の経験。

「アルゼンチンで、私の沖縄と日本がどんな新しい、広がりを持つか、そこが私の出発点である」と崎原さんが書くように、心を自由に羽ばたかせたことが革新的な作品で伝えられる。

沖縄近現代史と個人の経験を往還しつつ、映し出される沖縄は、地理的に限定されない「オキナワ」の姿を描きだしている。四六判222頁、2730円。



ファックス番号 03-3239-2958

新曜社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-9 第一九三ビル ■電話 03-3264-4973 ■FAX 03-3239-2958	sales@shin-yo-sha.co.jp
貴店番線	語り 移動の近代を生きる 四六判上製232頁・定価2730円（税込） ISBN 978-4-7885-1353-2 C1011	返条付 中山了解 冊